

令和 7 年度 第 1 回 こども部会 会議録

【日 時】 令和 7 年 5 月 29 日(木) 10:30~11:30 つるぎ町農業改善センター2 階視聴覚室

【参加者】 徳島県西部こども女性相談センター、発達障がい者総合支援センターアイリス、池田学園
池田支援学校美馬分校、池田支援学校、穴吹高等学校、美馬市長寿障がい福祉課
美馬市こども家庭センター、美馬市教育委員会、つるぎ町保健センター、つるぎ町福祉課
つるぎ町教育委員会、美馬保健所、ピース、相談支援事業所ワンハート、イノセント
障害者支援センター小星園、障害者支援センターかしがおか、相談支援センターイノセント
(計 24 名)

【会議録】 相談支援センターイノセント

<会議内容>

1. 自己紹介他

- 今年度より、穴吹高等学校正木先生がこども部会に参加して頂ける事になった。
- 令和7年度美馬市・つるぎ町障がい者自立支援協議会こども部会実施計画について。

2. 協議会の仕組みとこども部会の経緯、地域課題について

- こども部会の発足からこれまでの経緯、部会の目的等について説明。
- 美馬市・つるぎ町の地域課題について。

① 「児童の短期入所の受け入れ先が少なく、遠方にある」

・コロナが5類になって以降、利用希望者が増えている。池田学園では、徳島県西部以外にも愛媛県や香川県からの利用者もいる。県外も短期入所の利用先が少ない課題があり、県をまたいで利用するケースもある。週末の希望が多く、調整している。

② 「言語訓練を受けさせたいが空いている病院が少ない」

・鴨島病院の小児リハが縮小していると聞いた。吉野川医療センターも新規の受け入れを中止していると案内があった。(美馬市こども家庭センター)

③ 「強度行動障害児の受け入れ先が少ない」

・行動援護の事業所も少なく、サービスに結び付きにくい現状がある。

④ 「医療的ケアや重症心身障害児が利用できる事業所がない」

・徳島県西部の事業所は多機能型通所支援事業所ひまわり(三好市)、ナーシングホームあおいそら(吉野川市)があるが、利用に繋がらない場合は県外に引っ越しをするケースがあった。

⑤ 「たんの吸引や経管栄養が実施できるヘルパー事業所がない」

・最近、訪問看護事業所が増えてきたこともあり、解決しつつある様子。

- ⑥ 「一般高校在学時や卒業後に支援が必要なケースが増えている。」
- ・高校としては自分で就職活動が出来ないので福祉に繋がってほしいが、本人や保護者の希望は一般就労のため、失敗をしてしまうケースが多い。離職しても自分では HW に行けず、そのままになっているケースがある。
 - ・今後、就労支援部会とのコラボを考えている。
- ⑦ 「放課後等デイサービスの定員がいっぱいで利用できない」
- ・美馬市・つるぎ町には 3 つの事業所があるが、空きがなく、利用に繋がらない現状がある。
- ⑧ 「引きこもりや不登校児童への支援」
- ・ここ数年、こども部会でも話題に上がっている。
- ⑨ 「児童クラブと障害児通所支援事業所を併用した場合、費用が高くなる」
- ・児童発達支援と放課後等デイサービスは日割り計算だが、児童クラブは月額払いになっており、地域へ移行する際の課題となっている。
- ⑩ 「0 歳から 2 歳のこどもが児童発達支援を利用すると利用料がかかる」
- ・令和 7 年度から、徳島県で 0～2 歳児の保育料無償化の取り組みがスタートした。児童発達支援は利用料が必要。市町村によっては無料のところがあり、徳島県自立支援協議会で県に検討を依頼している。

3. こどもの福祉のしおりについて

○美馬市つるぎ町障がい者自立支援協議会のホームページに掲載している。各機関のページを確認して頂き、情報の修正等があればイノセントまで連絡をお願いします。

4. 障害児通所支援事業所について（空き状況、事業所の課題など）

<児童デイ ワンハート穴吹>

●空き状況

：火曜日、木曜日、土曜日（児童発達支援、放課後等デイサービス共に）が空いている。

●課題

：人員配置の関係から送迎の調整が難しい。（職員募集中）

<ピース>

●空き状況

：空きはなく、待機待ちの方がいる。

●課題

：送迎の調整が難しく、学校にお願いして学校で待機してもらう事がある。送迎の便が多く、学校の先生と会えない事が増えたので情報共有が難しくなった。

<イノセント>

●空き状況

：放課後等デイサービスは空きがなく、待機待ちは小学生が 9 名。イノセントの児童発達支援を卒業後、放課後等デイサービスの利用を希望しているこどももあり、待機待ちは全員で 13 名となっている。13 名の中には児童発達支援を終了して放課後等デイサービスを 2 年待機待ちしている児童もあり、新規の受け入れは難しい現状がある。

：児童発達支援も今年度は定員が埋まっている。来年度は就学のため6名空きは出るが、現在利用している方の利用日数を調整する場合がある。

●課題

：各学校の下校時間が重なる事が多く、送迎の調整が難しい。事業所の人員配置もある為、十分な支援が行き届かない事がある。学校によっては玄関から駐車場が離れているので学校に協力をしていただいたり、安全面の配慮が必要。不登校児の支援について、利用継続が難しく、サービスに繋がりにくい。

：不登校児の支援について。利用の継続が難しく、サービスに繋がりにくい。

：求人を出しても応募がない。職員の平均年齢が40代後半となっており、若い世代がおらず、今後の担い手について不安を感じている。※特に県西部は職員が集まらないので事業展開に至らない印象がある。

『質疑応答』

○放課後等デイサービスの待機待ちの間はどう過ごしているのか。

→児童クラブを利用したり、祖父母が対応をしている。

○家庭等での対応が難しくなった時、利用の優先順位はあるか。

→待機待ちの順番で利用をいただいているが、緊急時など状況により、検討が必要になる場合はある。

○計画相談を受けてもらえる事業所が少ない。

→各事業所の相談支援専門員が対応をしているケースの数が多く、新規の受け入れが難しい現状がある。

○計画を立ててもらわないとサービスを受ける事は出来ないのか

→相談支援専門員が計画を立てて福祉サービスの支給決定がされる流れがあるが、相談支援専門員以外に本人や家族などが立てるセルフプランがある。徳島県内ではセルフプランはほとんどなく、人口の多い都市部では多いが、セルフプランを作成する場合は留意点もあるので内容を熟知しておく必要がある。国はセルフプランをあまり推奨していないが、相談支援専門員の数が少ない現状があり、市町村や関係機関との相談や調整が必要。

5. 情報交換(グループワーク)

<Aグループ>

- ・療育手帳の判定の際に放課後等デイサービスの待機待ちをしているという話をよく聞く。
- ・通所支援事業所の訪問支援員が保護者や学校と連携を図ってくれている。
- ・3歳児健診が最後の健診。言語訓練に通っていても集団に入ると支援が必要になるケースがあり、アイリスに相談に来ることも増えている。
- ・5歳児健診が話題になっているが、医療スタッフの少なさやその後のフォローなど色々な課題がある。5歳で障害の診断を受けるケースは少ないかもしれない。美馬市では5歳児に集団でスクリーニング検査を実施したり、4歳児には昨年度より希望者に個別の発達検査を実施している。
- ・小学校の特別支援学級の定員は8人だが、定員を超えると支援学級が2クラスになる。対象児が多くなると手厚い支援が難しくなるのが課題。

<Bグループ>

- ・アイリスに相談に行く時には本人保護者だけでなく、学校や支援者が同行出来るとスムーズ。
- ・つるぎ町では放課後等デイサービス事業所がない事もあり、児童クラブを利用する児童が多い。
- ・池田支援学校のスクールバスについての意見や質問などがあった。

<C グループ>

- ・セルフプランについて、大阪府では特に枚方市や寝屋川市が多かった。本人の実態からかなりかけ離れた内容になる事があり、支給決定をする市町村や事業所との調整が必要になるケースがあった。大阪府全体と動きとして、相談支援事業所に計画作成を依頼している。
- ・相談支援専門員が担当している利用者数が多く、長く関わっていくケースが多いので終わりが無い。
- ・児童クラブの利用料が高く、児童クラブへの移行や放課後等デイサービスとの併用が難しい。

6. その他

○穴吹高等学校の通級について

：高等学校における通級の指導を行っている学校は県内は徳島中央高等学校、鳴門渦潮高等学校、那賀高等学校の3校だったが、令和7年度より穴吹高等学校で通級指導教室が開始。穴吹高等学校は単位制のため、選択科目の中の一つとして2単位(2講座)を開講。2年生、3年生で選択が出来るように設定。現在3年生で9名、2年生で3名が受講している。内容は自立活動でコミュニケーションや進路に関する事が中心。

※小学校や中学校のように教育支援委員会にかけると必要はない。